

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：刑事警察費

事業名 人身安全関連事案対策強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 生活安全部 生活安全総務課 電話番号：058-271-2424(内 3011)

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,523 千円 (前年度予算額：4,923 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,923	1,624	0	0	0	0	0	0	3,299
要求額	3,523	1,169	0	0	0	0	0	0	2,354
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

人身安全関連事案の主となるストーカー、DV事案は、令和元年中でストーカー事案は724件(前年比+101件)、DV事案は1,767件(前年比+303件)と相談認知件数は増加している。この種事案は、当初は比較的軽微な事案であっても事態が急展開し重大事案へと発展するおそれがある特徴があり、被害者等の保護及び被疑者の検挙対策を推進する必要がある。そのためには、資機材の確保や計画的な更新、捜査員への教養など捜査体制の強化・維持が必要である。

(2) 事業内容

- ・位置情報通報装置の運用
- ・被害者対策用防犯カメラの整備及び維持管理
- ・被害者等に対する一時保護の徹底
- ・精神科医等の活用や捜査員のカウンセリング能力の向上による再発防止に向けた行為者対策の実施

(3) 県負担・補助率の考え方

県内で発生する人身安全関連事案の被害防止に関する事業であり、県民の生命・身体の保護に直接関わる負担であること、また他の国庫補助対象事業と同様の割合で国庫を充当しており県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	664	人身安全関連事案対策用カメラ整備等事務費
役務費	59	人身安全関連事案対策用携帯電話使用料
使用料及び 賃借料	2,370	被害者対策用位置情報通報装置借上、被害者等一時避難施設の借上
備品購入費	163	人身安全関連事案対策用防犯カメラセットの整備
その他	267	精神科医等によるアドバイス謝金、カウンセリング講座受講経費
合計	3,523	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ストーカーやDV事案、児童虐待、高齢者虐待等の人身安全関連事案に対して迅速かつ的確な対応を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
ストーカー相談認知件数	(H)	568件 (H29)	623件 (H30)	724件 (R元)	(H)	%
DV相談認知件数	(H)	1,368件 (H29)	1,464件 (H30)	1,767件 (R元)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

人身安全関連事案に関する被害防止に向けた事業であり、目標設定は困難である。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 令和2年度中の各種鑑定件数（1月～9月）
 ストーカー事案認知件数 570件（前年同期比 +22件）
 DV事案認知件数 1,598件（前年同期比 +293件）
 ストーカー・DV事案被害者等への保護対策を徹底するため、位置情報通報装置を100台、小型・暗視型防犯カメラを10式、玄関用監視カメラを4台増強した。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 位置情報通報装置の貸与、監視カメラの設置等により、被害者保護の徹底を図ることができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	人身安全関連事案の被害防止対策は、県民の安全・安心に直結する事業であり、必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	人身安全関連事案の被害防止に関する資機材の確保・維持により効果的な運用に努めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	限られた予算の範囲内で効果的な執行に努めており、効果的な手法により事業展開している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>事案認知件数の高止まり感がある中、限られた資機材を有効に活用して被害者保護の徹底に取り組む必要がある。資機材の必要数の確保と維持管理が課題である。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>人身安全関連事案については、県民の安全・安心に関わるものであり、今後も継続して取り組む必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】
--	-------